

授業科目名	基礎看護学臨地実習Ⅰ		担当教員	◎鶴沢淳子、休波茂子、有家 香、 中川泰弥、新川実穂	科目ナンバリング NF156
必修	開講年次：1年後期	単位：1単位	授業形態：臨地実習45時間		

【授業概要】

医療機関の主な部門を見学することにより、その全体像について把握する。看護者のケアに参加することで看護の役割、患者(利用者)の生活環境、看護におけるコミュニケーションの重要性について学ぶ。また、学生が自ら患者(利用者)とのコミュニケーションを行うことで、看護者－患者関係について考える機会とする。

【達成目標】

1. 医療施設の主な部門の全体像について理解することができる。
2. 看護の役割を理解することができる。
3. 患者の生活環境について理解することができる。
4. 患者とのコミュニケーションを通して、その相互作用について気づくことができる。

【履修条件】

看護学概論を修得していること。

【授業計画】

- 実習1日目 オリエンテーション(実習病院の概要)、カンファレンス
 実習2日～4日目 病院実習、カンファレンス
 実習5日目 面接評価、実習の振り返り

【教科書】

指定なし

【参考書】

1. 志自岐康子他編集(2022)：ナーシング・グラフィカ 基礎看護学① 看護学概論，メディカ出版。
2. 松木光子編集(2011)：看護学概論第5版，NOUVELLE HIROKAWA。
3. 松尾ミヨ子他編者(2022)：ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ，メディカ出版
4. 松尾ミヨ子他編者(2022)：ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ，メディカ出版
5. 深井喜代子編集(2020)：新体系看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ，メジカルフレンド社。
6. 深井喜代子編集(2020)：新体系看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ，メジカルフレンド社。
7. 深井喜代子他 編(2017)：新・基礎看護生理学テキスト，南江堂
8. 深井喜代子他 編(2019)：改訂第2版基礎看護学テキスト EBN 志向の看護実践，南江堂

【評価方法・評価基準】

実習目標による評価(55%)、医療施設について学びのレポート(15%)、課題レポート(20%)、カンファレンス参加度(10%)

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：看護学概論、基礎看護技術論、日常生活援助論での学びを振り返りまとめる。事前課題としての主要な部門の機能と役割について記述する。(2～3時間)

事後学習：1日の実習終了後に各自体験したことを振り返り記述する。

実習での学びを振り返り課題レポートとして記述する。(2～3時間)

【教育目標(必須要素)との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力、Ⅲ. チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅳ. ヘルスプロモーションと予防の実践能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

実習に関わる記録については2年前期に学生個人に返却する(掲示により連絡)。

【備考】

- ① 基礎看護学臨地実習Ⅰでの学びは2年前期の基礎看護学に行われる看護展開論Ⅰ・Ⅱ、治療援助論に関連する。またこの実習の単位を修得していない場合、基礎看護学臨地実習Ⅱの履修はできない。
- ② 看護師としての5年以上の臨床経験を持つ教員が臨地実習を指導する。